

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	社会思想史A		
英文授業科目名	History of Social Thought A		
開講年度	2007年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

【主題および達成目標】
<p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返そうとする。そうした相互作用や葛藤の歴史として社会思想史を眺めた場合、主題はおのずと決まってくるだろう。思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと、あるいは特定の社会的・歴史的状況のなかでいかなる思想が要請されるのかを思考することである。</p> <p>本講義「社会思想史」は、前期の「A」を概論とし、後期の「B」ではより専門性の高い題材を扱う予定である。概論的な内容をもつ前期は、学生のニーズを考慮しつつ、科学思想史、あるいは科学と社会、その歴史的な変遷を素材とする。対象が広範にわたるため、講義は部分的なものとならざるをえないが、科学が諸思想の一部であること、その背後に社会的条件があることを押さえ、思想・社会・歴史を関連づける視点を入手することが目標である。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

電気通信大学 平成19年度シラバス

【教科書等】

伊東俊太郎・村上陽一郎・広重徹「思想史のなかの科学」（平凡社ライブラリー、1470円）をテキストとする。すべての章に言及する余裕はないので、講義で扱う章は第1回目の講義で通知する。

また、米本昌平ほか「優生学と人間社会 - 生命科学の世紀はどこへ向かうのか」（講談社現代新書、777円）をサブテキストとし、必要に応じて言及する予定である。

【授業内容とその進め方】

社会思想史Aは「思想史のなかの科学」を主題とする。

講義では、最初に前近代/近代社会の断絶についてのイメージを入手したうえで、現在が世界観の革命、科学革命の延長上に存在することを確認する。つぎに、テキスト冒頭の座談会を利用しつつ、現代の科学が孕む諸問題を概観して、科学を思想史の文脈で問い返す意義を概観していく。このような準備作業をへて、「科学革命」「近代的生命観の形成」「原子論の系譜」といったテキストの各章を順次追いかけていく予定である。

概論的な性格のため、とくにテキストにそって講義する場面では多くの人名が登場し、とまどう瞬間があるかも知れない。しかし、骨格をつかまえることにさえ留意すれば、講義内容を追いかけることはそれほど難しくはないはずである。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらったレポートによる。

レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。

評価基準は、提出されたレポートがポイントを押さえしていれば「良」、押さえしていなければ「可」、自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められれば「優」とする。とくに独創性のあるものが「秀」である。

その他、講義に積極的に取り組んだ者には平常点を加味する予定である。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

【その他】